

# パレスチナ難民支援 ～レバノンより～

VOL 1 | 2019年5月 |



## パレスチナ難民

## レバノンの場所



## パレスチナ医療協力支援事業

皆様いかがお過ごしでしょうか。オレンジ4階病棟看護師の渋谷です。私は今、レバノンにいます。レバノンは中東のシリアやイスラエルのお隣で日本の岐阜県ほどの面積の小さな県です。レバノンには約50万人のパレスチナ難民が生活しています。70年前から難民ということは生まれた時から難民という人が多くを占めているということです。それでも、難民の子供として生まれると、国籍も市民権も財産権もありません。職業も制限されます。想像できますか？

上の写真は日赤が支援しているパレスチナ赤新月社の病院の外科病棟になります。右が師長さんです。患者さんは骨折して人工骨頭の手術を受けました。ここでは師長さんも点滴をやったり、バイタルを測ったりします。限られた資源の中で、病院のスタッフも働いています。そしてスタッフ自身も難民なのです。

患者さんに写真を載せてもいいのか聞くと日本で有名人になっちゃうねと笑ってくれました。



では実際の難民キャンプはどんなところでしょうか？70年暮らしているんですから、テントではありません。雑貨屋さんや食べ物屋さんもあります。野菜だって肉だって買えます。

でも、水は塩辛くて飲めたものじゃないそうです。空を仰ぐと電線や水道管、インターネットの回線など張り巡らされていて、空がきれいに見えないんです。歩く時も電線にも足元の悪路にも注意して歩かなくてはいけないんです。同じレバノン国内でもレバノン人が住んでいるところとは全く違うんです。



難民キャンプの中です。道は狭く、整備されていないです。電線で感電する人がたまに運ばれてくるそうです。

日本にいると見えないことが見えてきます。

皆さんに知ってもらおうと、伝えることも私の仕事だと思っています。



左から名古屋第2 秋田看護師、通訳のクルドさん、渋谷、和歌山益田医師

## レバノンのご飯

右側がタブレというパセリとトマトのサラダでお気に入りです。左側のはパンにつけて食べるひよこ豆のペーストです。美味しいですよ♪ 実はレバノン国内は物価が高いんです。なので、普段は自炊しています。お米も買えますよ～エジプト米とかですが・・・



不定期にはなってしまいますが、次回は病院内の様子などお伝えできたらと思っています。シュ克蘭（ありがとう）

オレンジ4階病棟 渋谷美奈子